

# パブリックコメント実施結果 (提出された意見と市の考え方)

## 小牧市人口ビジョン（改訂版）（案）及び 第2期小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案） についての意見募集

### 1 意見募集期間

令和2年 3月10日(火)から  
令和2年 4月 8日(水)まで

### 2 意見募集の周知方法

- (1) 広報こまき 3月1日号
- (2) 市ホームページ

### 3 資料閲覧場所

- (1) 市役所情報公開コーナー(本庁舎1階)
- (2) 市役所秘書政策課窓口(本庁舎5階)
- (3) 東部・味岡・北里市民センター
- (4) ゆう 友 せいぶ、ふらっとみなみ
- (5) 市ホームページ

### 4 提出された意見の件数

1名より計1件

(参考)意見提出方法の内訳(単位:人)

提出方法	郵送	メール	ファックス	持参	計
人数	0	1	0	0	1

## 5 提出された意見と市の考え方について

No.	提出された意見	市の考え方
1	<p>全国でこのビジョンと戦略をつくることになった事情は、全国的な出生数減少と東京一極集中という気がかりな人口移動と理解しております。</p> <p>小牧市において、20代30代の若い人々の転出超過が気になるところです。そしてその多くは名古屋に流れ、更に東京へという流れになっている感じがします。そして転入が多い大都市の人口は女性の比率が高い、にもかかわらずその地域の合計特殊出生率が低いという特徴が認められます。極端な言い方をすれば、キャリアを求める若き独身（または結婚や出産を望まない、家庭・家族づくりを望まない）女性がそこに移動している、と観ることができます。これをどう考えるか、これを施策展開のためのアプローチの一つの視点に定めたらどうでしょうか。</p> <p>男女共同参画が叫ばれる今日、これが女性の力発揮の呼びかけとなり、主婦を忌避し、出産や育児を負担に思い、上記のような状況を生み出しているのかもしれない。仮にそうであったとしても、この新しい価値観や文化を葬るわけにはいきません。</p> <p>勤労者は、基本的には、家庭を持つ身であり、父であり、母である人々です。それが損なわれていることが問題の起点であるという認識が大切だと思います。発達した資本主義社会は、自由に行動できる個人を求める社会であり、そこでは必ずしも必要条件ではなく、よって家庭や家族を持つことを喜びではなく、負担、邪魔なものとして捉えさせてしまう側面があります。</p> <p>これは、世界の流れや努力に目を向けることによって、参考事象や改善策を見出すことができるものがあると思います。その観点で世界を眺めた場合、その改善策となるもの、または効果のあるものとして、私が注目したいものは次の二つです。</p> <p>一つ目は、認定保育ママ制度です。これはフランス等が採っている取り組みです。フランスは、世界に先駆けて、百年も前に人口減少の課題を抱えた国でしたが、それを解決させた施策の一つとして評価されています。これが夫婦共働きと、そのもとでの子育てを保障していると思います。学ぶことはとても多いと思います。</p> <p>二つ目は、ワーク（ジョブ）シェアリングで</p>	<p>ご意見いただきましたとおり、若い世代が働きながら家庭を持つためには、出産や育児の負担感を軽減することは重要であります。第2期総合戦略においても、基本目標2「若年世代の希望がかなう結婚・出産・子育て環境の整備」で、子育て世帯の支援を位置付けております。そして取組にあたっては、ご提案いただいた認定保育ママ、ワークシェアリングなどの先駆的事例も参考にしながら、子育て世帯の支援を進めてまいります。</p> <p>さらに、人口減少克服及び地方創生の充実・強化を図るには、行政全般の取組を横断的な視点をもって進めることが重要であります。そのため、第2期総合戦略においては、SDGsやSociety5.0などの新たな時代の流れや外国人との共生・女性活躍・高齢者活躍などの多様な人材の活躍という新たな視点を追加し、効果的な施策の推進に努めてまいります。</p>

す。ドイツでは、夫婦等による仕事の分かち合いにより、労働時間の短縮や協働等の有機的な価値を生み出しております。これが世界一労働時間の短い国に導くことに貢献した条件の一つとっております。

これらをエビデンスとして捉え、それらについての研究や実践を広め、普及に向けての取り組みを進めることも大切と思います。

加えて三つ目に、在宅勤務の普及を挙げたいと思います。働く場が家庭とともにあれば、勤労者、父、母それぞれの機能の併存のもとで生活できます。総務省ほか国の各省において、ICTを活用したテレワークの推進策を打ち出しています。

これらについて、一地方都市の施策として展開するのは難しいと思いますが、これらを促進する政策態度は持ってもらいたいと思います。

注目したい点が、各市町の人口昼間流入出です。小牧市は、かつて名古屋のベッドタウンと称されていましたが、製造業や運輸業が強くなったこともあり、今日では昼間流入者数が流出者数を上回っております。これは、市域を越えて、以前にも増して（一方通行ではなく双方向で）交通機関を利用して毎日通勤している人々が多数おられることを示します。つまり多彩な公共交通機関や自動車自転車等通勤をスムーズにする中近距離交通インフラの整備がものを言うと思います。併せて勤労者の家庭生活づくり支援（夫婦共働きとそのもとの子育てや家族の介護等の保障）のために、子育てや介護等のきめ細かい支援策の整備、地域や世代相互の授け合い機構の構築が大切でしょう。そしてイクメンプロジェクト推進等、旧来の家事文化変革の啓発、かつ、人間にとって家族こそが最大の宝ということを知らしめる教育（思想・価値観・仕組み・文化）の創生でしょう。これらの有機的な整備により、希望する仕事に就きたいという人々の思いを保障し、通勤や子育てや家族介護を難儀と感ぜない、そして家庭・家族を尊重する人づくりに寄与し、かつ出生数減少や気掛かりな人口移動を抑制する施策になるのではないかと思います。